

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 3 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170101758		
法人名	株式会社 アイ・ディー・ジャパン		
事業所名	グループホーム サイネリア		
所在地	岐阜市萱場東町2丁目1番地 (電話) 058-294-5741		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】 (平成 20 年 1 月 6 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	15,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	500 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 1 月 6 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 66 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しま医院、平野総合病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昨年ホームの大規模な改修がなされ、2階建てホームの1階のみを使用している。増築されてできた部屋もあり、それぞれ家庭的な雰囲気である。浴室、台所、トイレ等の水周りの改修もあり、利用者や職員にとっても利用しやすい環境になった。地域住民とのかかわりが推進されて行く中で、ホームの理解や利用者への関心が深まってきている。利用者自身の生活リズムを大切にしたい支援が行われ、会話や団楽を中心に、近隣の花見にドライブなど気分転換も図っている。利用者の身体能力の変化や対応に配慮のいる方への支援で職員は忙しいようである。運営者は運営基準外でも人員を迅速に増やしたいと募集を行っているが、応募がなく、今後も継続していくとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 民家改修型のホームであったことで共有する空間が無かったが、改築で構造的な面での課題の多くが解消された。記録については、業務日誌の改善で、短期目標を業務日誌に記載することで、日常業務において職員に各利用者の目標が認識づけられるようになった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、介護支援専門員が共同で作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2~3ヶ月に1回、運営推進会議が開催され、家族、民生委員、包括職員、市職員等の出席がある。ホームの活動報告や、外部評価の報告、又、改善課題の検討も行われている。認知症の説明も行い、地域のホームへの理解が広がっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時には、利用者の暮らしぶりを伝えているが、苦情等の声は無く「お任せします」の声が多い。面会の回数は家族の事情により異なるが、電話連絡を行い、状況説明や希望の確認を行うようにしている。年1回の「サイネリア便り」発行し、外出やお誕生日会の様子、冬の健康管理の情報を載せた。月1回の郵便物は金銭出納のみの連絡となっている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩や近隣のスーパーで出会う地域の人たちと挨拶を交わす日常がある。自治会の加入や運営推進会議のメンバーに地域役員が入ったことで、ホームからの情報発信の機会ができて来た。認知症やホーム住民への理解が進みつつあるが、地域とホーム、それぞれの行事への参加等の交流にまでは至っていない。
重点項目④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の下で利用者が自立した日常を営むことができるようにする」という運営方針と同じ理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家庭的な環境であるように、管理者と職員間で、日常に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の役員が運営推進会議のメンバーに入ったことで、ホームからの情報が地域に発信できるようになり、認知症やホームへの理解が得られるようになった。自治会に加入はしているが、現在のところ、互いの行事への参加等の交流には至ってない。	○	職員の努力で、散歩等で会ったときには、地域の方からも挨拶が交わされるようになってきている。更には、地域の応援が得られるよう、より親交が深められる取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者、介護専門員で自己評価表を作成した。前回の改善課題である介護記録については、職員とも話し合い、改善した。外部評価の結果については、運営推進会議にも報告し、改善課題の検討も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、自治会長、民生委員、包括職員、市職員が参加する運営推進会議を2~3ヶ月に1回開催している。ホームでの生活の様子や改善課題の検討を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、岐阜県グループホーム協議会の役員を務めており、市町村との交流は積極的に行っている。相談に乗ってもらったり、提案を行ったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面接時を大切に、利用者の日常を報告している。面会の回数は家族の事情により異なるが、電話連絡を行い、状況説明や希望の確認を行うようにしている。年1回の「サイネリア便り」発行し、外出や誕生日会の様子、冬の健康管理の情報を載せた。	○	月1回、郵便での金銭出納の報告を行っているが、日ごろの暮らしぶりや観察された身体状況の報告も合せて行い、更に、家族からも安心が得られる支援となるよう情報提供回数を増やす等、ホームとしての取り組みが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、入居契約時に希望や苦情の申し立て方法を十分に説明しているが、これまでに、家族からの意見や苦情は出されていない。	○	面会の回数が少ない家族もあるが、広く意見を聞く機会を作り、運営に反映させる取り組みが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職時はできるだけ、利用者に影響を与えないように職員募集を行い、補填している。職員異動の書面での報告は行っていないが、家族の訪問時に紹介している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成には配慮しているものの、現在の職員数からは外部の研修に参加する余裕がなく、日常で一緒にケアを行いながら、職員間で話し合いを行っている。	○	職員に研修受講を勧めたいとする取り組みがあるので、専門職としてのケアの質の向上が図られる事を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者が岐阜県グループホーム協議会の役員を務めており、各種の情報は伝達されているが、管理者や職員の交流には至っていない。	○	他事業所との交流を図ることで、自ホームの取り組み方との違い等に改めて気づく機会ともなるため、今後は、他の同業者とも交流を図られたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の問い合わせがあった場合、事前に利用者宅の訪問を行い、本人や家族にホームやサービスの利用についての説明を行い、入居後、安心して暮らせるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできる可能性を引き出しつつも、多くの場面で職員の支援が必要な利用者があり、個別での対応で共に過ごしている。	○	1人の利用者に対する個別対応で、周囲の利用者にも影響が及ぼされている場面もあり、他の医療機関との連携を図る等配慮・協議し、ケアの質向上への取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者と話す機会を多くつくり、日常交わす会話の中でも、気持ちが出ている言葉がないか、注意して傾聴している。言葉がうまく出ない場合でも表情や態度や声のトーン等に注意し、把握に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成については、職員からの意見を出し合っているが、本人や家族からの要望を聞きだす十分な時間が取れていないと感じている。又、関係医療機関との十分な連携を取ることを今後の課題としている。</p>	○	<p>「お任せします」の言葉が多い家族から、暮らしぶりの希望を聞きだしたり、暮らしぶりを報告する等しチームでかかわれる体制づくりへの取り組みが期待される。</p>
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>改善した業務日誌に利用者の状態をきちんと記入し、申し送りを行うことで、計画の目標がどのように進んでいるか職員間に伝達されている。介護支援専門員と相談しながら目標への確認を行っている。見直しは、3ヶ月に1回行うことを原則としている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>職員数の関係から多くのことはできないが、家族より依頼があった場合の医療機関への通院支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力医による往診があり、又、必要に応じて受診支援を行っている。	○	看護師等医療系の職員がいないので、長期になった利用者の身体の変化にも対応できるよう、支援体制の再構築を検討しており、その取り組みが期待される。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の身体状況の変化に合わせ、別の施設を紹介したり、医療機関での対応を行っている。利用者の家族とはホームでできる事の限界を話し、対応を説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家庭的な雰囲気ではあるが、利用者への呼びかけやケア中の言葉かけが不注意な場面もある。個人記録については事務所に管理し、情報管理されている。	○	自己評価をきっかけに、職員の言葉がけなどをミーティング等で再確認する予定があり、その取り組みが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は特に決めておらず、利用者の体調に合わせたリズムで行っている。入浴、外出についても利用者の思いを大切に進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物はほぼ毎日行い、希望する利用者と交代で1人ずつ買い物に出かけている。利用者に食べたいものを尋ねたり、献立と一緒に決め、季節感のある料理を主に職員が調理している。食事をする場所は、利用者の相性や能力を配慮して3ヶ箇所ある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3回を基本としている。浴室も広くなり、職員にとっても入浴支援しやすく改修された。洗濯場所も浴室に隣接した。安全に管理しているとの事であるが、消毒剤に入った衣類が浴室の洗い場に保管されている。	○	薬品の安全管理に配慮しているとのことであるが、利用者のあらゆる行動も予測したリスク管理の面からも更なる工夫が期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一部の利用者ではあるが、食事の後片付けや洗濯物たたみ、廊下等の掃除を自分の役目として進んで行っているため、職員は共に行動したり、見守っている。	○	今後は一部の利用者だけでなく、楽しみや気晴らしを考えた支援が、利用者全体に行われることを期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常では、近くにあるスーパーへの買い物や近所への散歩をしているが、歩行能力や判断力等により、一部の利用者に限られている。1人の職員でできる外出支援は限られるが、できるだけ支援回数を増やし、多くの利用者に外出の機会を提供したいとしている。	○	外出できる利用者は一部の方に限られているため、更なる工夫でより多くの利用者にも、また、より多くの外出支援が行えるような取り組みが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路が近いことやホームの横を川が流れていることへの配慮から、玄関は終日施錠されている。家族への説明も行われ、理解を得ている。	○	鍵の施錠が日常の当たり前とするのではなく、利用者の状況や地域の協力・支援が得られる等の環境を整えば、開放する時間を取り入れられないか等を検討する取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、利用者と共に避難訓練を行っている。昨年増築工事もあったことから、誘導について検討した。避難計画や実施の記録は、ホームに残されておらず、本社に集まっており、確認はできなかった。	○	避難計画書や実施記録もホームに保管し、職員間での日常の振り返りの材料として、職員間での周知・再確認を行い、また、地域住民からの協力を得るための取り組みが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録に残している。食事に全介助が必要な利用者や水分の摂取が難しい利用者もあり、職員で担当を決め、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昨年大幅なホーム改築を行ったことで、居間、台所、トイレ、浴室場等が広くなり、採光も良い。職員にとっても介護する空間が広くなり、職場環境が良くなった。利用者は、コタツやテーブル等の好きな場所で、思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みには制限を設けておらず、神棚や家族の写真、たくさんの服などを持ち込み、持ち込まれた品は、利用者にとってよりよい生活空間となるように配置している。物品につまずかないように片付けにも配慮している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。